

平成元年 3月 3日

舞鶴市民新聞

「みずなぎ学園」
用地などで活用

高野小跡地

市内高野由里の高野小学校跡地(約六〇〇平方メートル)の利用方法を検討していた舞鶴市はこのほど、跡地をほぼ三分割し、一区画は宅地として分譲、一区画は社会福祉法人「みずなぎ学園」の授産施設用地として無償貸与、あと一区画は地元・高野地区の広場にすることを決めた。

市土地開発公社によると、まず高野川に沿って東西に幅約六メートルの道路をつけ、東側の区画約一四〇〇平方メートルを六戸分の宅地として分譲する。西側の区画は同地区のゲートボール場などの広場として活用する。
残る中央の区画は、みずなぎ学園の授産施設「みずなぎ高野学園」(仮称)の用地。施設の規模は三十人定員で、鉄骨ブロック造平屋建て。建築面積は四八〇平方メートル。総工

費は約一億一千六百万円で、舞鶴市は建設補助費として来年度予算案に一千万円を計上している。
現在、府道志高西舞鶴線と跡地をつなぐ橋のかけ替え工事が進められている。橋は幅が約六メートル、長さ約一六メートルで総工費は約四千万円、六月末完成の予定。市ではこの橋の完成後、跡地の整備に入る。

平成元年 3月 22日

舞鶴市民新聞

障害持つ人たちが
交流試合

卓球バレー

市内安岡、身体障害者福祉施設「こひつじの苑舞鶴」(徳川輝尚苑長)で十八日、鹿原の精神薄弱者福祉施設「みずなぎ学園」(岡本四寿園長)の入園者七人を迎えて、両入所者による初の卓球バレー交流試合が行われた。市内各福祉施設の入所者の親睦と交流をはかること、「みずなぎ学園」の呼び掛けで実現した。今後、両施設では定期的に交流試合を行うほか、他の施設にも交流の輪を広げる。
「みずなぎ学園」では、昨年秋に京都市で開催された全国身体障害者スポーツ大会の公開競技となった卓球バレー



和気あいあいとした中で熱戦を展開する参加者たち

のチームを結成、入所者らが練習を続けている。また、「こひつじの苑舞鶴」では、卓球バレーを入所者の機能回復訓練のひとつとして採用している。両施設で共に行われている卓球バレーで、あまり交流のない入所者同士の交流をと、この日の試合となった。卓球バレーは、一チーム六人ずつで、卓球台を囲んでピンポン玉をこがすゲーム。
交流試合は、両施設の入所者たちが台の上でピンポン玉をほじき合い、和気あいあいとした雰囲気で行われた。
「みずなぎ学園」の指導員を務める松岡正人さんは「今後、老人ホームなどにも呼び掛けて、卓球バレーのほか、ゲートボールなどスポーツを通じて交流を広げたい」と話していた。